

地方創生で活気ある町に

議会だより

No. 72

2015. 8. 30発行

からうら

夏だ！
プールだ！



ケーブルテレビ新方式に — 2

新議員紹介 — 4

地方創生への提言 (一般質問) — 6 ▶ 15

ヤングファーマーを紹介 — 16

4K、8Kの新しいテレビにも 対応できる新方式を採用



ケーブルテレビ工事請負契約 3億7千万円を承認

改選後初の「若あゆ会議」を7月10日、23〜27日まで開催、ケーブルテレビ工事請負契約、事務委託に関する規約の一部改正、移动式書架備品購入契約の締結について原案通り可決しました。

議長に国 清一 議員

副議長に麻植秀樹議員を選出



副議長
麻植 秀樹



議長 国 清一

就任にあたりひと言

「今、やらなければ」

勝浦町政60周年の記念の年に、議会議員の選挙が行われました。改選後の議員の平均年齢は約60歳と、有史以来の若さと勢いがあります。

7月10日に初の「若あゆ会議」が開かれ、指名推せんにより議長に選任されましたが、責務の重さを痛感しております。

町の重要課題である、地方創生に「今、やらなければ」と全力で取り組んでまいりますので、今後とも町民みな様の力強いご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

議案に 対する質疑



美馬議員 楽ビジョンが無くなるが、それに代わるサービスはどうなるのか。スピードが速くなる以外何かメリットはあるのか。

伊丹参事 防災や見守りなどの行政情報のサービスは、検討しているが経費は高くなる。

井出議員 防災や見守りのオプションは、各個人が選択するのではなく、町全体のシステム代金が、高くなるということか。

伊丹参事 町としてどのような機能を選択するべきか、まだ決まっていない。

4 月会議

通年の会期決まる

27年		28年	
7月(若あゆ会議)	10・23・24・27日	1月	19日
8月	18日	2月	17日
9月	8・9・10・17日	3月(ひな会議)	8・9・10・11・22・23・24・25日
10月	22日	4月	26日
11月(みかん会議)	5・25・26・30日	5月	17日
12月	15日	6月	21日

請負契約の承認 役場庁舎、福祉センター耐震改修工事 3億1104万円

専決事項 税賦課徴収条例、介護保険条例の一部を改正する条例

町民の声に対する質問

井出議員

問 ケーブルテレビ契約の改定について、テレビだけの方は利用料金を安くできないのか。

答 伊丹参事 目的が高速通信網整備であるから、インターネット、テレビ、IP電話のセット料金になる予定である。

5 月会議

町民の声に対する質問

井出議員

問 福祉センターの工事期間中、住民に他の会議室を貸し出しできないのか。

答 伊丹参事 図書館2階を含め、できるだけ便宜を図っていきたい。

節議員

問 道の駅運営の指定管理の応募状況と今後のスケジュールは。

答 福田副町長 現地説明会には1団体の出席があった。5月22日までが応募期間で、申請があれば審査を行い、6月議会に提案する。

6 月会議

指定管理者に井戸端塾

道の駅「ひなの里かつうら」の指定管理者が井戸端塾に決まり、27年10月から30年3月まで管理運営を委託する。

一般会計補正予算 マイナンバー制度対応費 4140万円
60周年記念事業費追加 150万円
備蓄倉庫備品購入費 600万円

町民の声に対する質問

美馬議員

問 町民体育祭の実施にむけて、進捗状況と今後のスケジュールは。

答 河野教育委員会事務局長 現在、競技種目やPR方法、準備品の検討を行っており、10月に最終案を決める予定である。

国清議員

問 地方創生に関し、町民との意見交換会が開かれたが、成果と今後の予定は。

答 福田副町長 65名の参加があり、みかんのブランド化や空き家利用などに貴重な意見を寄せてもらった。議会の提言も参考にして10月までに計画を策定したい。



人権擁護委員推薦に
同意しました



大久保十祈子さん
(今山)

やります!



地方創生で 活気ある町に

6月28日の町議会議員選挙で、新たに選出された議員の「政治信条、抱負」などを、議席順に紹介します。

(カッコ内は、年齢・出身地区・当選回数)

1番議員



仙才守
(64歳・坂本・1回)

対話を重視した活動で町民の声を町政に届けます。郷土を次の世代につなぐため、また安心して住みよい町づくりのため「初心」を忘れずに頑張ります。

2番議員



松下 一
(65歳・石原・1回)

町民との対話を大切に、きめの細かい町政をめざし、微力を尽くしたいと思います。

3番議員



美馬友子
(57歳・棚野・2回)

日常の暮らしの目線で一つひとつの課題を、皆さんと共に考え、町政をより身近に感じられるように活動します。

4番議員



麻植秀樹
(59歳・中角・2回)

町民の皆様の声に広く耳を傾け、未来の勝浦町を創造していきます。小さい声にも耳を傾ける行政を推進します。頑張ります。

5番議員



松田貴志
(39歳・棚野・3回)

住民との対話を重視し、スポーツを通して世代間の交流を深め、健康的で笑顔あふれる魅力ある町づくりに取り組みます。

6番議員



節公一
(63歳・横瀬・3回)

住んでいる人が良いと実感できるまちづくりを目標に、伝統を受け継ぎ、新しい風を加えて地域を盛り上げていく。「明朗研磨」で身近な存在と感じられる議員に。

7番議員



国清一治
(66歳・星谷・3回)

「子供の未来輝く町」を政治信条に、安心・振興・光流を政策の柱に据え「新しい勝浦を創る」ことに全力投球いたします。

8番議員



森本守
(68歳・中山・3回)

安心して暮らせる町づくりのため、皆さんの声をよく聞き、まじめに一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

9番議員



井出美智子
(59歳・今山・4回)

お年寄りや子ども、弱い立場の人を大切にし、農業の活性化を図り、みなさんと力をあわせて安心安全元気な町作りに力を尽くします。

10番議員



大西一司
(66歳・生名・4回)

輝く町、勝浦の再生をめざして、町民の目線に立った行政を推進し、故郷発展のため頑張ります。

議会構成 決まる

議会広報常任委員会

委員長 井出 美智子
副委員長 仙才 守
委員 美馬 友子
委員 松田 貴志
委員 籾 公一

議会運営委員会

委員長 美馬 友子
副委員長 松下 一
委員 麻植 秀樹
委員 大西 一司

防災対策特別委員会

委員長 松田 貴志
副委員長 美馬 友子
他全員

地方創生特別委員会

委員長 大西 一司
副委員長 籾 公一
他全員

小松島外三町村 衛生組合議員

委員 松田 貴志
委員 国清 一治
委員 大西 一司

東部広域農道整備促進 特別委員会

委員長 森本 守
副委員長 籾 公一
委員 仙才 守
委員 松下 一



議会選出
監査委員
籾 公一 議員

- 地域のコミュニティーが減り、集まる所がない。子どもや若者、年寄りとの交流場所がほしい。
- 町で未婚者を把握して、県全域を対象とした婚活事業をしては。
- 商品を見て買いたい物がなかったので、各商店の品をそろえて移動マーケットを。
- お遍路さんのためにトイレ等の看板設置を。
- ミカンやスタチのPR不足。ふるさと納税のお礼に送るなど食べ方を知ってもらおう工夫を。
- 仕事も持つ親の現状をもっと知ってもらいたい。託児所の整備や休日には遊べる場所を。
- 救急救命士がいらない。定住を目指しているなら命の保障が必要。

各団体から見た町の課題

4月23日 婦人会(19名)
5月18日 老人会(13名)
5月20日 青年会(5名)
6月2日 移住者交流会(6名)

まちの声 キヤッチボール



提言書を提出

地方創生総合戦略策定に向けて

県下に先駆けて、ひな会議で「地方創生特別委員会」を立ち上げ、3月30日に第1回委員会を開催した。

6回にわたる町民団体との懇話会や、8回の特別委員会を開催した。

議員が一丸となり、それぞれの具体的な提案の中から厳選して、提言書を練り上げた。

一般質問

議員が町の執行部に対して、様々な角度から町政について質問すること

町の課題に切り込む!

質問議員	質問事項	ページ
松田 貴志	1、常備消防設置、必要経費は 2、県道徳島上那賀線、棚野地区は 3、定住人口増加策、人口の偏在解消を	7
麻植 秀樹	1、県道徳島上那賀線、中角工区完成時期は 2、勝浦川南岸堤防（中角）大丈夫か 3、学校教育に電子教材を 4、町政60周年記念行事の招待者は	8
松下一一	1、有害鳥獣駆除の取り組みは 2、耕作放棄地の課税は 3、石原家台中山線、拡幅工事状況は 4、沼江谷川、掛谷谷川の管理は	9
仙才 守	1、勝浦町を文教の町に 2、常備消防・救急の充実を 3、災害発生時の対応は 4、災害弱者に対する救助・避難情報の共有について	10
美馬 友子	1、障がい児支援、放課後デイサービスの開設を 2、高齢者支援、認知症サポーターを増やせ	11
森本 守	1、県道新浜勝浦線、中山工区予算確保を 2、久国地区の石倉谷川の改良を 3、勝浦中学校進入路の安全対策を 4、中山横瀬簡易水道、濁り対策は	12
井出美智子	1、保育料無料化、第3子以降の全年齢で 2、ケーブルテレビ料金、高齢者世帯の負担軽減を 3、農業後継者支援強化を	13
節 公一	1、地方創生総合戦略、町が宅地造成しては 2、ウォーキングの町に 3、住宅新築補助事業、公平性に問題はないか 4、公的な塾の構想は	14
大西 一司	1、アグリサポートクラブの創設を 2、町による宅地造成を 3、交流広場の建設を 4、阿南方面へのバス運行を 5、大雨対策に排水ポンプを	15

会議予定日

9月8日・9日・10日・17日 10月22日 11月5日・25日・26日・30日

松田貴志議員



常備消防設置

必要経費は

約6億円必要 (参事)

問 現在までの取り組み、設置に伴い想定される施設整備費や人件費の総額は。

答 伊丹参事

近隣自治体と事務レベルの協議を行っている。設置に必要な経費は、消防車両の整備等に4億1000万円、人件費等で1億3900万円、消防団運営費に約4800万円を見込んでいます。

問 常備消防設置に対し、新たな財源はあるのか？

答 伊丹参事

施設整備費には過疎債を活用し、運営費については一般財源を充てたい。

問 消防団では新入団員の勧誘を行っているが、定数を確保するのが難しく平均年齢も上がっている。常備消防が設置されると消防団の定数や体制はどうなるのか。

答 伊丹参事

おそらく常備消防体制だけでは対応できないので、現状の消防団体制、定数を

維持したい。

県道徳島上那賀線 棚野地区は

問 横瀬橋東側から徳島銀行間の狭隘部分の現状と今後の方針は。

答 柳沢建設課長

車道が狭く、大きくカーブしているため事故が多い。安全確保の重要箇所として認識しており、以前から関係機関に要望をしている。

県としては、現在工事中の生比奈小学校西側300m完了後、東側480mの用地交渉に入る予定である。町としては中角地区と平行して、早期に棚野地区に着手できるように、引き続き県に要望していく。

定住人口増加策

人口の偏在解消を

問 24年度から実施している民間資本を活用した住宅整備の目的と成果は。

答 伊丹参事
この事業は総合計画の住環境整備を目的に実施されたが、24年度は家賃補助のみであったため応募が無かった。一戸当たり300万円の建設費を補助する制度に充実させ、25年度は12戸、26年度は5戸の住宅が建設された。若者の町外転出の抑制や転入者が増加し、一定の効果を上げている。

問 この2年間で沿江地区では人口が50人ほど増えているが、坂本地区では同じくらい減っている。人口の偏在が顕著になりつつあるが、行政として現状を許容するのか。

答 中田町長
現状で良いとは考えていない。地域の隔たりなく人口が増え、活性化できるように取り組みたい。

その他の質問

○ 地方創生について



早く広げられ！

中角工区完成時期は

夏休み期間中に完成したい (建設課長)

麻植秀樹
議員



問 先月の台風11号の際、工事現場において危険なことはなかったのか。

答 柳沢建設課長
今回の台風では何もなかった。

問 工事期間は、9月27日までとなっているが、間に合うのか。

答 柳沢建設課長
歩道工事の進捗率は90%であり、夏休み期間中に頑張つて完成したい。すべての工事が完成するには、もう少し時間がかかる。

勝浦川南岸堤防 (中角)大丈夫か

問 南岸堤防を今後どう整備していくのか。

答 中田町長
今夏の台風11号では、被害は見られなかったが、平成16年に大規模改修を行い、平成23年の台風時にも災害復旧工事を行った。安全確

保のためにも、引き続き県に堤防の強靱化を働きかけていく。

学校教育に電子教材を

問 学力向上に向けた、電子教材の取り組みの現状は。

答 河野教育委員会
事務局長
小・中学校に情報教室を設けパソコンを配置している。

本町のデジタルコンテンツの整備率は県内において、中学校では上位に、小学校では中位にランク付けされており遅れているといった現状ではない。

問 今後どのように具体化していくのか。

答 河野教育委員会事務局長
2020年をめどに、デジタル教科書の導入を検討中。将来的には、各児童生徒にデジタル教科書に対応したタブレット端末の導入も進めていかなければならない。現在、教科書をそのまま

町政60周年記念 行事の招待者は

問 町政60周年記念行事に

映し出す投影機や壁掛けの大型テレビ、デジタル掲示システムを計画的に導入している。

答 椎野教育長
大型の壁掛けテレビについては、両小学校には今年度中に普通教室に整備できる。

際し来賓者の招待状はどこまで発送したのか。

答 伊丹参事
町に関係する産業団体や行政機関、学校教育機関、金融機関や企業で、これまでに貢献された個人、団体を選任した。

問 ふるさと納税の方は。

答 伊丹参事
全員の方を招待したかったが、高額の方を招待しなかった。



電子黒板を使った授業

有害鳥獣駆除の 取り組みは

捕獲実績は伸びている（産業交流課長）

松下 一一 議員



問 勝浦町の基幹産業は農業であるが、鳥獣被害で生産意欲が低下し、深刻な問題となっている。
駆除などに今後、どのように取り組むのか。

答 野上産業交流課長
捕獲班においては罾が多く、捕獲実績は伸びている。駆除の従事者は、有害鳥獣捕獲対策協議会で調整する。

免許取得には、ほぼ全額補助し、捕獲の奨励金は今年度、1000万円を予算化している。
町の財政を圧迫しており、今後、検討が必要になる。

耕作放棄地の課税は

問 山林化した耕作放棄地が多く見られる中、課税強化が取りざたされているが、耕作放棄地を山林並みにできないか。

答 松本税務課長
利用状況に重点を置き、申し出があれば農業委員会で協議し、農地か山林かの判断をする。

市民農園の運営は

問 市内から近いという利点を生かし、年間を通して町外者と交流を深めるため、市民農園を計画してはどうか。

答 野上産業交流課長
栽培の指導者、全体の管理者を配置しなければならず、休憩所や衛生施設の併設も必要のため、実施するのは難しい。

石原家台中山線 拡幅工事状況は

問 進捗状況と今後の予定は。また、安全対策としてスピードの抑制方法はどのようなのか。

答 柳沢建設課長
26年度から用地交渉を始め、現在は測量が終わり境界杭を設置している。
今後、用地買収にかかり、終わりにくい工事発注し

で、28年度に完成する予定である。
スピード抑制対策としては、路面に工夫をする。

沼江谷川、 掛谷谷川の管理は

問 両谷川には雑草が生い茂り、土砂のたい積が非常

に多くなっている。
県の管理なので、早期に除去してもらうよう強く要望すべきでは。

答 柳沢建設課長
町長と共に、県に対し要望を続けていく。

その他の質問

○パイロット跡地の利用計画は



拡幅される石原家台中山線

勝浦町を文教の町に

学力向上支援員を配置

(教育委員会事務局長)



仙才 守議員

問 本町は子育て世代に対する支援が手厚いにもかかわらず、同世代の流出が多い。教育環境を整え勝浦町を文教の町にしたらどうか。また、学力調査の結果は。

答 河野教育委員会事務局長 昨年度の調査では国語・数学とも基礎学力はあるが応用・活用面で課題がある。

答 椎野教育長 児童・生徒に向き合う時間を確保するため土曜授業を導入した。

問 教師の多忙実態と対策は。

答 河野教育委員会事務局長 小中とも1/3の教師が午後8時頃まで残業している。対策として学力向上支援員を配置し、校務支援システムも導入している。



河野教育委員会事務局長



救命士の同乗が望まれる

常備消防・救急の充実を

問 小松島市との協議の進捗状況は。

答 福田副町長 努力しているが、まだ報告すべき段階にはない。

問 常備消防された時の住民負担は。

答 伊丹参事 年間運営費の試算では町民一人当たり3万3200円。それ以外に装備費が必要。また24年度非常備消防の運営費は町民一人当たり1万3900円だった。

問 救急の出動状況と応急処置の実施状況は。

答 伊丹参事

件数は年間280件程度。内訳は勝浦病院へ88件それ以外が116件で勝浦病院からの転院が76件。運転手と助手の2名運行で、一般的な応急処置と介助をしながら搬送している。転院の場合は看護師が同乗することがあり、人工呼吸やAEDを実施している。

災害発生時の対応は

問 建設業者と出動協定は結んでいるか。

答 柳沢建設課長 勝浦町建設業協会との間で、応急復旧工事に関する協定書を締結している。

問 業者が即応できない場合もある。重機所有住民となんらかの協定は可能か。

答 柳沢建設課長 事故発生時の損害賠償対応が難しいので、住民との協定は考えていない。

災害弱者に対する救助・避難情報の共有について

問 避難支援や被災者の救助を的確に行うには、事前情報の把握が重要。情報整備は。

答 伊丹参事 災害弱者の避難支援については福祉課等に支援台帳がある。

美馬 友子議員



障がい児支援

放課後デイサービスの開設を

関係者と相談しながら検討する

(町長)

答 河野教育委員会事務局長
学童保育や町外の放課後

問 放課後は子供や親にとって大事な時間であるが、子どもたちはどのように過ごしているのか。

答 河野教育委員会事務局長
障がいを抱えた児童・生徒数は、過去5年間の推移をみると増加傾向にある。

問 発達障がいとは全国的に増加傾向であるが、町の推移はどうか。



楽しいネ。放課後デイサービス

答 大西福祉課長
放課後や休日に、生活能力向上のための訓練や社会交流を促進しており、施設

問 障がいの種類や程度によつては学童保育では無理があるので、放課後デイサービスに通っていると思われるが、その内容はどのようなものか。
また、施設はどこにあるのか。

デイサービスへの通所、習い事などで過ごしている。

問 大切な放課後活動は、今まで保障されていなかった。保護者の相談や要望は何かあったのか。

で送迎してくれるところもある。近いところで小松島市や羽ノ浦町にある。

問 子どもたちやその家族の支援体制の確立が必要であり、町内で放課後デイサービスができないか。

答 福田副町長
施設の開設に国の補助制度はないが、利用する児童の経費は、負担のないような制度になっている。

問 補助制度はないのか。

答 大西福祉課長
進級や将来の進路、雇用不安、地域社会の理解、健康や精神的不安がある。保護者の送迎負担の軽減のため、町内にもデイサービス等が利用できる施設があればとの要望はある。

答 中田町長
町内の認知症の方は年々増えてきている。私も含め職員にも積極的に勧めていく。

問 住民サービスや、高齢者の見守り強化対策のために、サポーターを増やすことは大事ではないか。

答 大西福祉課長
6月現在、町内サポーターは502名で、その中の6名が町の職員である。

問 勝浦町では地域包括支援の活動で、毎年認知症サポーターは増えてきているが職員ではどうか。

高齢者支援

認知症サポーターを増やせ

答 中田町長
保護者のニーズや要望を十分聞き、町内の社会福祉関係者とも相談しながら検討していく。

中山工区予算確保を

補正予算に全力（町長）

森本 守議員



問 中山工区の工事は、現在どのように進んでいるのか。

答 柳沢建設課長

昨年は40mの用地買収と改良工事を行い、今年度は60m区間の用地買収と改良工事を行う予定である。本年度県当初予算1500万円であり終えるには不足している。県の補正予算等の機会を捉え、事業費確保を働きかけていく。

久国地区の石倉谷川の改良を

問 町長を先頭に予算確保を県に働きかけていくべきでは。

答 中田町長

新浜勝浦線については関係者から強い要望をうけている。補正予算確保に全力をつくす。

問 石倉谷川は暗渠や蛇行が多く、水の流れが悪い。改良や手当が必要ではないか。

答 柳沢建設課長

この度の台風11号でも、石倉谷川があふれ県道が冠水した。20年ほど前に石倉谷川洪水対策の要望が

勝浦中学校進入路の安全対策を

あったが、改良できていない。現在ではできる範囲で土砂を取り除いている。

答 柳沢建設課長

仮設鉄板は撤去されている。段差があれば解消する。

問 新しい勝浦中学校に対して、進入路が粗末だとの声が多い。仮設鉄板に砂利があったり段差があるため自転車転倒するおそれがある。安全対策は。



改良が必要な石倉谷川（久国）



気をつけて通ってネ

中山横瀬簡易水道

濁り対策は

問 谷川の水を利用している簡易水道では、組合でどんなに努力しても大風や大雨により、水道が濁る。その対策は。

答 柳沢建設課長

濁った水のサンプルを複数採取して調査し、地元の水道組合と協議している。

問 水源確保に向けた山林保護の施策はあるのか。

答 柳沢建設課長

国の制度として林業生産に力を入れているが、作業道を敷設し間伐を広範囲に行ない集伐、搬出しないと補助が出ない。

その他の質問

- 救急車の運用について
- 若者住宅について

井出美智子議員



保育料無料化

第3子以降の全年齢で

4月にさかのぼって実施(町長)

問 徳島市や阿南市では「第3子の保育料無料化」を全年齢で実施している。町でも、4・5歳児に限らず、全年齢で実施してはどうか。

答 中田町長

これまでも第3子の保育料無料化は、県下で2番目に取り組むなど、先進的に子育て支援に取り組んできた。今年度からの県の補助



第2子も無料にしては

制度を利用して、第3子の保育料無料化を全年齢で実施する自治体が増えてきているが、勝浦町でも4月にさかのぼって実施する。

問 神山町では第2子は全員、石井町や佐那河内村では、保育所に同時入所の場合の第2子も無料としている。勝浦町も検討してはどうか。

制度を利用して、第3子の保育料無料化を全年齢で実施する自治体が増えてきているが、勝浦町でも4月にさかのぼって実施する。

答 中田町長
そこまでは、考えていない。

ケーブルテレビ料金

高齢者世帯の負担軽減を

問 インターネットを使用しない高齢者世帯にとって利用料金の負担が大きい。80歳以上の高齢者のみ世帯への負担軽減策を検討してはどうか。

答 中田町長

上勝町との共同事業であり、料金の変更は考えていない。

問 参事は、これまで町長に高齢者世帯への対策について、町長に提言したことはないのか。提言があれば、町長として、前向きな対応ができるのではないか。

答 伊丹参事

高齢者世帯は303世帯あるが、軽減策の提言は、これまでしていない。

農業後継者支援強化を

問 若い夫婦が就職して、国の新規就業青年給付金制度を利用しようとしても難しい。希望者の内、断念した例はどのくらいあるのか。

答 野上産業交流課長

現在3名が利用しているが、土地の相続の問題など、解決しがたい課題もあり難しい。また、営農計画の確実な実施も必要のため、支給停止となった例もある。

問 町としても、もっと農業後継者支援をしなくてはならない。全国の先進的な例にならって岩手県の岩泉町並の制度を創設したらどうか。

答 中田町長

地方創生の事業の中で、支援に取り組んでいく。

地方創生総合戦略

町が宅地造成しては

必要性は認識している（副町長）

部
公
一
議
員



問 現在、町外に住んでいる若者の中にも、安くて便利な宅地があれば、将来的に勝浦町で家を建て、定住を望んでいる人が多くいる。耕作放棄地などを町が買い上げ、造成して売り出しではどうか。

答 そのための制度上の問題はあります。

答 福田副町長
職員が適地を探すのは難しいと思われることや、多額の事業費がかかるリスクが懸念される。近隣の地価との関係も問題になるが、住む場所の必要性は認識しているので、しっかりと検討していく。

制度的には企業会計を作る必要がある。

ウォーキングの町に

問 最近では健康志向からウォーキングの人气が高まっている。

勝浦町にはウォーキングに適したコースがたくさんあり、四季おりおりの景色



森林浴を楽しみながらウォーキング

答 中田町長
勝浦町は市内から近く、自然環境が豊富という利点を活かし、交流のまちづく

※フォトロゲイニングとは、地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるアウトドアスポーツです。

を楽しめるよう、魅力的な企画をして町のPRしてはどうか。

また、ポイントを設け、写真を撮って通過記録とするフォトロゲイニングで商店や品物をPRしては。

りとして活性化を図るため、ぜひ取り組んでいきたい。

住宅新築補助事業

公平性に 問題はないか

問 27年度の地方創生事業の中で、移住・定住対策として、町外からの移住者を対象に、100万円を上限とした新築住宅補助があるが、町内居住者との公平性に問題はないのか。

答 中田町長
人口減少対策として町外

答 中田町長
住環境の整備は必要なので、提言の主旨を認識しながら、公平な制度として取り組んでいく。

公的な塾の構想は

問 経済格差が教育格差とならないよう、公的な塾を運営している自治体があるが、勝浦町の構想は。

答 椎野教育長
学校での教育体制を充実させるのが王道であるので、公立での塾は考えていない。

その他の質問

- 空き家調査の効果は
- 教員の資質、指導力の向上は
- 学力向上指導員の今後の展開は



担い手不足解消

アグリサポート クラブの創設を

担当課と十分協議（町長）

問 町の総合計画のトップに農業振興を掲げているが、担い手不足による耕作放棄地等を防ぐため、農作業を補完する組織、アグリサポートクラブを立ち上げては。

答 中田町長

現在、農業振興に様々な施策を講じているが、後継者、担い手不足は特に深刻だ。担当課とも十分協議して実践できるのか検討していきたい。

町による

宅地造成を

問 町の発展には道路網の整備と住環境の整備が重要だ。本町には宅地が少なく新築を諦める人も多い。町による宅地開発を進めては。

答 中田町長

現在、民間の賃貸住宅を推進しているが、新しい家を建てて永住していただけるようになれば、人口問題についても少しは解決でき

ると思う。積極的に財政投資していきたい。

交流広場の 建設を

問 様々なイベントを通じて町内外から多くの人々が来町しているが、各種イベントや集客を高めるための交流の拠点づくりが必要だ。

答 中田町長

道の駅周辺は様々な施設が充実しており、産業文化の交流拠点ができたものと思っている。交流広場ができて、さらに賑わいがあるまちづくりをしていければとの思いはある。

阿南方面への バス運行を

問 保護者からの阿南方面へのバス運行に対する要望は非常に強い。通学できな

いため、町外への流出もあると聞く。何としても実現を。

答 中田町長

保護者の方々からの強い要望や通学の大変さは承知している。デマンドバスと重ね合わせての運用も考えられるが、財政的な問題もあるので十分検討していきたい。

大雨対策に排水ポンプを

問 県道が冠水し、馬越の扉門が閉じ幹線道路が遮断される事態も起こっている。排水ポンプを設置するなど抜本的な対策が必要では。

答 中田町長

生名谷川周辺では河川の改修や砂防ダムの建設もしている。浸水被害対策を含め、今後住民が安全で安心して過ごせるまちづくりに取り組んでいきたい。



排水ポンプで浸水対策を（美波町）



勝浦農業の宝

ヤングファーマーを紹介♪

- ① 就農しようと考えたきっかけは。
- ② 今後の展望は
- ③ 農業を志す若者にエールを

花岡 洋介さん (32歳) 中角



島根県出身の奥さんとお子さん2人の4人家族。両親、祖母と一緒に2町の晩生、極早生5反、ハウスみかんを5反栽培している。

- ① 当初は教員を目指していたが、浪人中の出会いや学びがきっかけになり、農業系の大学に進学、実家の農業を継ぐ覚悟を決めた。
- ② 果樹と真剣に向き合い努力を重ねることで、商品価値を高めていきたい。また、若手就農者のグループで新規販路の開拓等について情報共有したい。
- ③ 就農して強く感じるのは「やったらやっただけもんでくる」ので、やりがいがあるし、比較的自由な時間が作りやすく、子育てするには最高の環境である。



- ① 大学で臨床心理学を学んでいた時、食の大切さと農村コミュニティの重要性に気がきました。
- ② 農業を通じて「人が集まる場所づくり」ができればと思います。9月12日(土)に「田んぼ食卓～稲刈りと音楽とマルシェの日～」というイベントを計画しています。詳しくは「徳島 寺川農園」で検索してネ。
- ③ 先人と若者が知恵を出し合って協力すれば、勝浦をもっと魅力ある町にしていけると思うので、6次産業などにも力を入れて盛り上げていきましょう。



今年の春に実家で農業に就く。坂本 長福寺の前。無農薬・有機栽培で稲、野菜、果樹(すだちや桃)を作っている。規模の拡大より高品質な農産品を作りたい。

新居 慧香さん (25歳) 坂本

生比奈小学校 プールで

表紙写真



新編集委員「がんばります」

「だれのなんでもいんせいな」を合言葉に「安保関連法案に反対するママの会」が、先日、東京で初めての街頭宣伝とデモを2000人の参加で行なった。「半数を超える国民が反対しているのに、わけのわからないまま進む事態を何とかしたかった。」「みんなが勇気をもって声を上げ、政府や、無関心な人に、少しでも振り向いてもらえれば」「戦争では何も解決しない。70年間守られてきた平和をつないでいきたい」「ママの言葉が心に響く。今、29都道府県で「ママの会」が作られ、全国にこの運動が広がっている。(みちこ)

編集後記

